

# 世界旅打ち気分

●第72回・ビクトリア州の競馬場2場

## 須田鷹雄



写真1)コーフィールド競馬場のレース風景



写真2)コーフィールド競馬場のスタンド1階



写真3)パッケナム競馬場のスタンド前からレースを見る人たち

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載も長いこと続けているが、キャブのある競馬場を優先して紹介するために、主要場の紹介がまだ足りたりもする。

今回はまず、オーストラリア・ビクトリア州のコーフィールド競馬場から紹介しよう。

以前にも書いたことがあるかもしれないが、オーストラリアの競馬場はメトロ・プロヴィンシャル・カントリーの3カテゴリー、そしてそれは別のアマチュア騎手専用競馬であるピクニックに区分される。

ややこしいことに競馬場はプロヴィンシャル場だがこの開催はメトロ開催ということがあったりビクトリア州ではプロヴィンシャルと呼ぶそれもカントリー扱いだったりもする。しかしいずれにしても、コーフィールドは堂々たるメトロ場である。

開場は19世紀と古く、皆さんにもおなじみのコーフィールドカップは第1回が1879年に行われている。オーストラリアにはグランドスラムという4大レースの概念があり、コーフィールドカップはそのひとつでもある(他の3つはメルボルンカップ、コックスプレート、ゴール

デンスリッパ)。日本人からするとそこまで重要なレースか?と思うかもしれないが、歴史の古さがあるのだ。

この競馬場は交通も便利。メルボルンの中心部から南東に電車で30分ほどのところ。駅から競馬場までも近い。レンタカーの運転ができない観光客でも訪れやすい。スタンドなどの施設は1995年から96年にかけて改修を行い、さらに05年にもコース改修などがあって、大きくはないが全体にしっかりとしたものになっている。ただ先日、スタンドの一部が焼失してしまった(放火といわれている)。秋(日本の春)の大レースまでに完全に復旧はできないようで、残念だ。

大レースの数は多い。今年度の番組でも変わっていないと思うが、G1レースが年間に12レースもある。東京競馬場でも8レースだからいかに多いか分かるだろう。オーストラリアはとにかく重賞の数、G1の数が多く、それだけ馬主にチャンスが広がっているとも言える。

コースの形は独特だ。直線やスタンドの側から見ると正方形の右上部分だけ斜めにしたような形年に移転しており、カーナビが指していたのは旧競馬場跡だった。市街地の狭い競馬場から郊外の広い土地に引越したもので、ビクトリア州に新しい競馬場ができたのは40年ぶりのことだったという。さきほど「パッケナムにおける芝のレース」と書いたのはAWコースもあるからで、芝コースは1周2400m、AWは2000mというからかなり広いコースである。コースの線形は1〜2コーナーがゆったりして、3〜4コーナーがタイト。日本で言ったら阪神競馬場を左回りで使うようなものである。なぜ新設競馬場わざわざそんな線形にしたのかは分からないが、パッケナムとメルボルンの間にある克蘭ボルン競馬場も3〜4コーナーのほうがタイトなので、それをよしとする価値観があるのだろうか。ちなみにこの原稿を書くにあたって調べていたところ、パッケナムと克蘭ボルンは昨年運営組織を合併させてサウスサイドレーシングという団体になったようである。

この2つの競馬場は運営組織が同じ、線形が似ているということに加えて、もうひとつ共通点がある。それはパッケナム競馬場、2015

で、1, 3, 4コーナーは角ばったように見える作りになっている。距離に応じたシフトがいくつもつくられており、最も長いシフトの奥は1200mのスタート地点。まっすぐ走り、左に90度曲がって直線という日本にはないようなコース設定だ。

オーストラリアではバドックのことをマウンテイングヤードというのが、スタンドの前に細長いマウンテイングヤードがある一方、スタンドから見ると左側に大きなバレードリングがある。スタンド前のほうはかなり窮屈なスペースに作られているが、そのぶん馬を間近に見られる面もある。

オーストラリアの競馬場はメンバリエリアと一般エリアに分かれているが、コーフィールド競馬場についてももちろんその通り。スタンド1階はブックメーカーの列で両エリアが分けられており、どちらの側からもブックメーカーの馬券を買うことができる。その列の脇に關所があり、通行証があれば一般側からメンバリエリアに移動ができる。書籍や動画でネタにしたことがあるのでそれを見た方もいるかもしれないが、コーフィールドの1階に

ある。それは調教施設としての重要さである。克蘭ボルンは競馬場の脇に競馬場より大きな調教施設を併設している。パッケナムは608エーカー(東京ドーム52.6個分)計算を間違えていないか不安だという敷地を生かし、先述した大きいコースの中には調教コースを、外にはふんだんな馬房を用意した。そのため近年ではここに厩舎を構える一流調教師も増えている。

スタンドは小さく小さいもので、なぜかコースとの距離が少し開いている。写真3を見てもう少し開いていると思うが、スタンドのすぐ前で観戦すると馬たちはかなり遠くを走る感じになる。そしてスタンドは直線に正対しておらず、少し4コーナー側を向く感じに角度が付けられている。このあたりの感覚はよくわからないものだ。

小さいといってもスタンドの中にはカフェなどの施設があり、提供してくれる食事もしっかりしている。こちらは車で行きづらいが、天気が良いとファンエリアの芝生が広々として気持ちのよい競馬場なので、機会があったら訪問していただきたい。